

ORICON

2014年3月期 第1四半期決算説明会

2013年8月2日

2014年3月期 第1四半期決算の概要

スマートフォン向けの売上が着実に拡大

スマートフォン向け音楽配信サービス : 前年同期比35.6%増

スマートフォン向けサイトの広告販売 : 前年同期比58.0%増

フィーチャーフォン向け着うたフル・着うたの売上が減少 (着メロは増加)

着うたフル : 前年同期比34.5%減

着うた : 前年同期比41.9%減

顧客満足度(CS)ランキング連動型広告は堅調に推移 (前年同期比5.8%増)

CSランキング連動型広告以外のWEB広告商品の売上也増加 (前年同期比2.8%増)

雑誌事業は雑誌市場環境悪化の影響により苦戦 (前年同期比15.4%減)

着うたフル・着うたの減収額の影響が大きく

連結業績

売上高	: 1,259百万円 (前年同期比 7.2%減 98百万円減)
営業利益	: 157百万円 (前年同期比 23.2%増 29百万円増)
経常利益	: 145百万円 (前年同期比 27.4%増 31百万円増)
四半期純利益	: 76百万円 (前年同期比 59.6%増 28百万円増)

利益率の高い売上(広告、着メロ)が増加し、利益率の低い売上(着うたフル、着うた)が減少したため、全体として利益率が向上

連結損益計算書



(単位:百万円)	2013年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	増減	
			金額	増減率
売上高	1,357 (100%)	1,259 (100%)	98	7.2%
売上原価	809 (59.6%)	698 (55.5%)	111	13.7%
差引売上総利益	547 (40.4%)	561 (44.5%)	13	2.4%
販管費	420 (30.9%)	403 (32.1%)	16	3.9%
営業利益	127 (9.4%)	157 (12.5%)	29	23.2%
経常利益	113 (8.4%)	145 (11.5%)	31	27.4%
税金等調整前 四半期純利益	109 (8.1%)	145 (11.5%)	35	32.7%
四半期純利益	47 (3.5%)	76 (6.0%)	28	59.6%

主な減収要因

着うたフル [148百万円減(34.5%減)]
 着うた [27百万円減(41.9%減)]
 雑誌事業 [44百万円減(15.4%減)]
 データ・コンテンツ販売
 [9百万円減(38.3%減)]

主な増収要因

スマートフォン向け音楽配信
 [26百万円増(35.6%増)]
 顧客満足度ランキング連動型広告
 [6百万円増(5.8%増)]
 着メロ [61百万円増(88.6%増)]
 昨年11月にセガカラMelody事業を
 譲受したことによるもの
 ソーシャルゲーム事業(その他の事業)
 [38百万円増(207.1%増)]

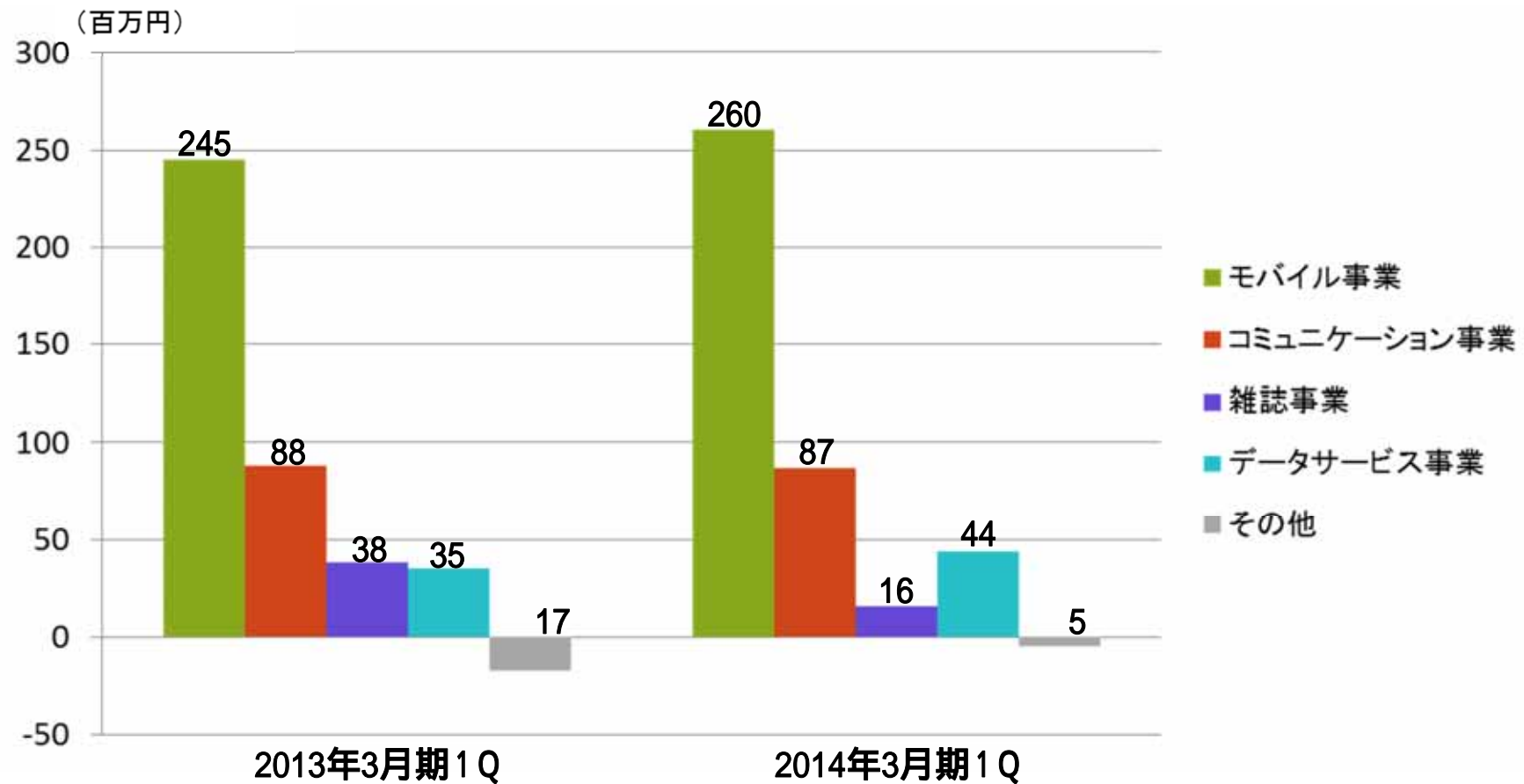
モバイル事業の売上減少に伴い、
音源使用料が78百万円減少。

報告セグメント別売上高



(単位:百万円、百万円未満を切捨て)

	2013年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	増減	
			金額	増減率
コミュニケーション事業	249	249	0	0.1%
WEB広告販売	226	235	9	4.1%
CSランキング連動型広告	118	124	6	5.8%
バナー型広告・タイアップ型広告等	108	111	3	2.8%
データ販売・コンテンツ販売等	24	14	9	38.3%
モバイル事業	666	575	91	13.7%
フィーチャーフォン向け	591	473	118	19.9%
着メロ	69	130	61	88.6%
着うた	65	37	27	41.9%
着うたフル	431	282	148	34.5%
情報系等	25	22	3	13.9%
スマートフォン向け音楽配信	74	101	26	35.6%
雑誌事業	287	242	44	15.4%
データサービス事業	135	134	1	0.9%
その他(ソーシャルゲーム事業等)	19	57	38	207.1%
売上高合計	1,357	1,259	98	7.2%



モバイル事業は、着うたフルと着うたの売上減少による減益の影響があったものの、利益率の高い着メロの売上が増加したことによる増益効果があり、セグメント利益は増加。

コミュニケーション事業は、WEB広告の増収による増益効果があったものの、昨年8月に事業撤退した法人向けフィーチャーフォン用コンテンツ販売の売上が発生しなかったことが影響し、セグメント利益はほぼ横ばい。

連結貸借対照表



(単位:百万円)		2013年3月期末	2014年3月期第1四半期末	増減
資産合計		4,454	4,427	27
	流動資産	2,263	2,237	26
	有形固定資産	536	533	2
	無形固定資産	1,152	1,147	5
	投資その他の資産	495	502	6
	繰延資産	6	5	0
負債合計		2,429	2,446	16
	流動負債	1,869	1,995	126
	固定負債	560	450	109
純資産合計		2,025	1,980	44
	株主資本	2,009	1,967	41
	その他の包括利益累計額	0	1	2
	新株予約権	14	14	0

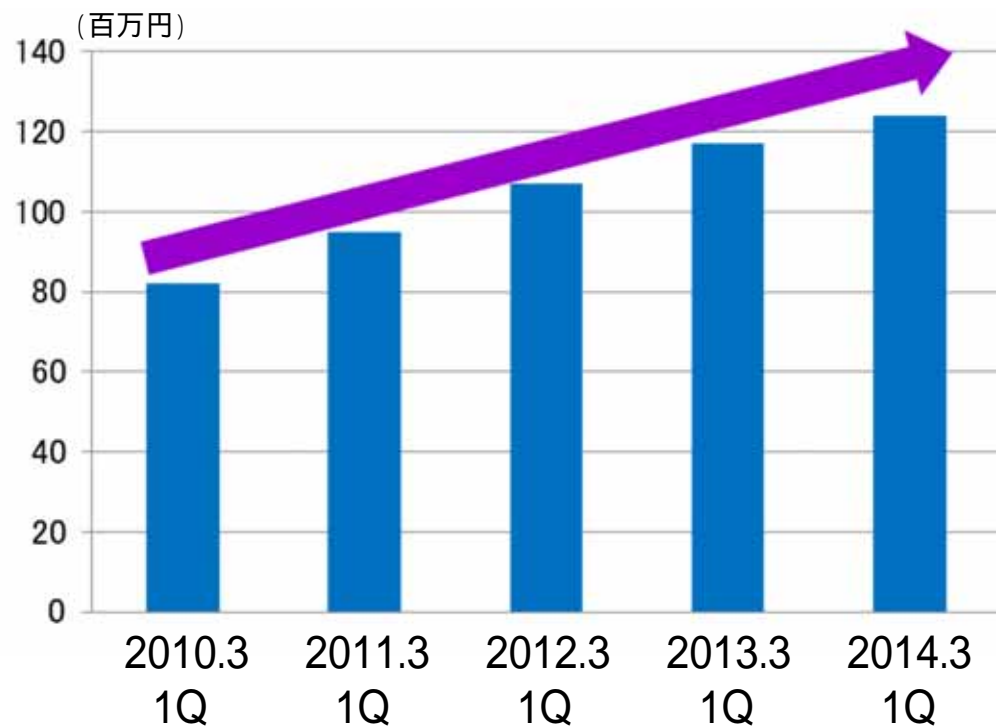
総資産は27百万円減少。現金及び預金は149百万円増加したが、売掛金、のれん、投資有価証券等が減少。負債合計は16百万円増加。短期借入金の増加、未払法人税等及び長期借入金の減少が、主な変動要因。純資産は44百万円減少。四半期純利益76百万円を計上したものの、配当金117百万円の支払があったため。自己資本比率は44.4%となり、前期末比0.7ポイント低下。(前年同期末と比べれば5.2ポイントの上昇)

長崎県大村市の34,027平方メートルの敷地(賃借期間:20年)に、太陽光パネル等の設置を完了し、2013年7月13日より電力会社(九州電力)への売電を開始。
発電出力は、約1.1メガワット。 想定される年間の売電収入は、44百万円～48百万円(税抜)になる見込み。
現在、当社グループで1年間に使用している電力量の約2倍の量をクリーンエネルギーで発電できる見通し。



伸長事業の状況

CSランキング連動型広告の売上高
～各期第1四半期ごとの推移～



安定的に収益を拡大。

2014年3月期においても新規ジャンルを複数立ち上げる予定。

すでに、2013年5月に「海外旅行保険」、「オンライン英会話」の2ジャンルを新規立ち上げ。

さらに、継続的に追加していく予定。

データ購入の需要が拡大。経年比較、同業他社との比較などのニーズが高い。データ販売にも注力。

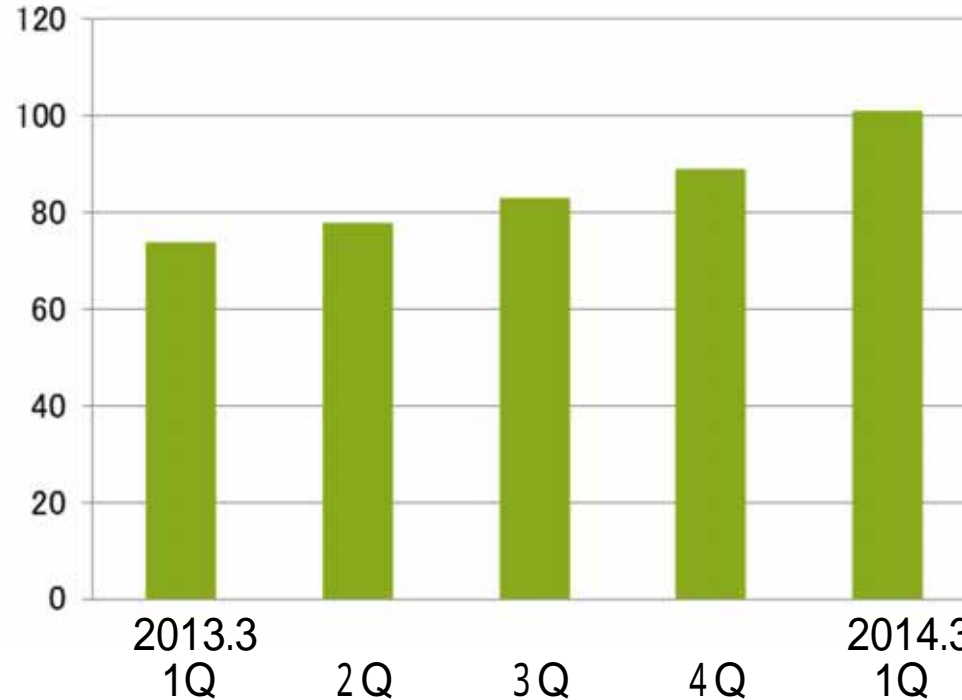
調査設計およびデータ解析を高度化。

「来店型保険ショップ」(2012年11月～)、「ネットスーパー」(2013年3月～)、「食材宅配サービス」(2013年3月～)を新規ジャンルとして立ち上げたことも、収益拡大に寄与。「レーシック」、「矯正歯科」、「審美歯科」などのジャンルを休止したことによる売上減少分を補って、全体として増収。



「オリコンミュージックストア」の売上高推移

(百万円)



2013年3月にブラウザ上で楽曲のダウンロードと課金決済を行うことのできる仕様に変更。これによって専用アプリのダウンロードが不要になり、「ORICON STYLE」サイトから「オリコンミュージックストア」へのユーザー誘導が促進。楽曲購入件数も増加。

当社グループが自社で大量のデータ(ビッグデータ)の高速処理・分析を行っていくため、SAS® Office Analytics を導入するとともに、それに必要なサーバー類を整備(2013年6月)。同時に、機械学習、テキストマイニング、クローリングなどの研修を、担当部門のみならず、全社員を対象として実施。当該分野のリテラシーとスキルが全社的にアップ。

既存データの付加価値向上

「ORICON BiZ online」、「オリコン顧客満足度(CS)ランキング」などを高度化
社会的に価値の高いソリューション、コンテンツ、サービス、広告商品を開発

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

その他記載されている製品名、サービス名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

オリコン株式会社

IR用ホームページ <http://www.oricon.jp/>